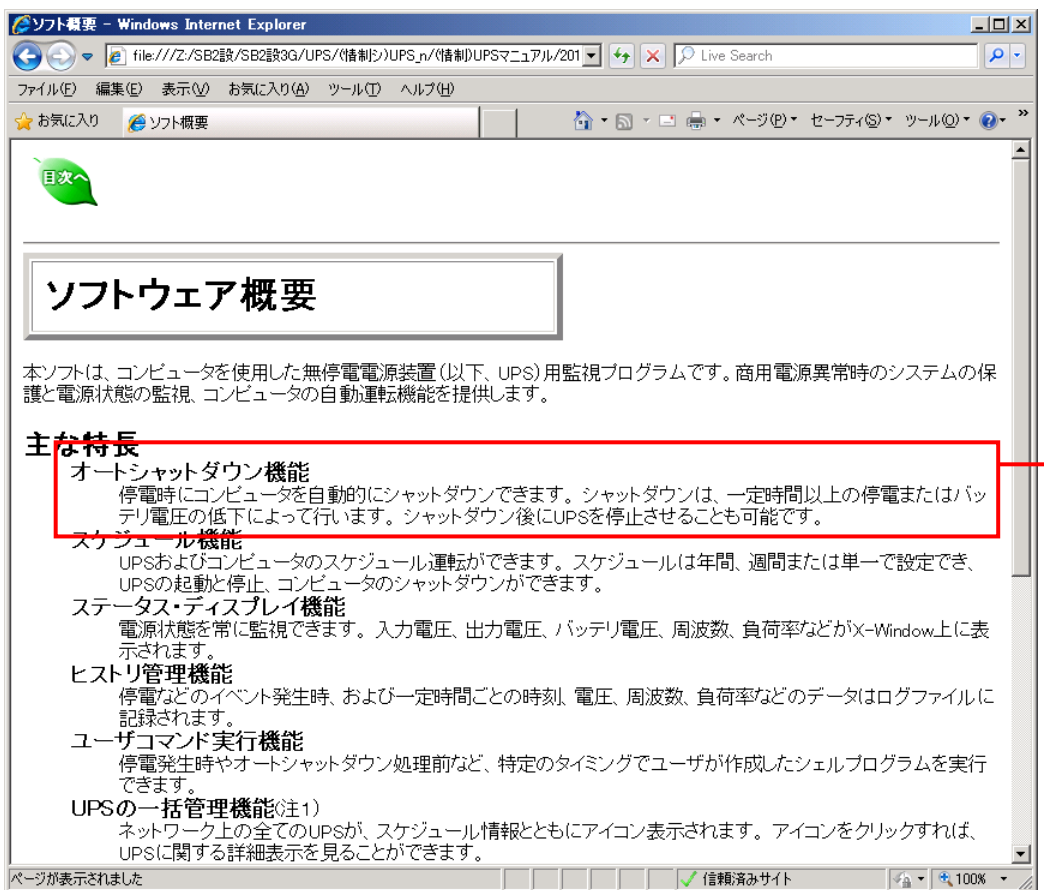
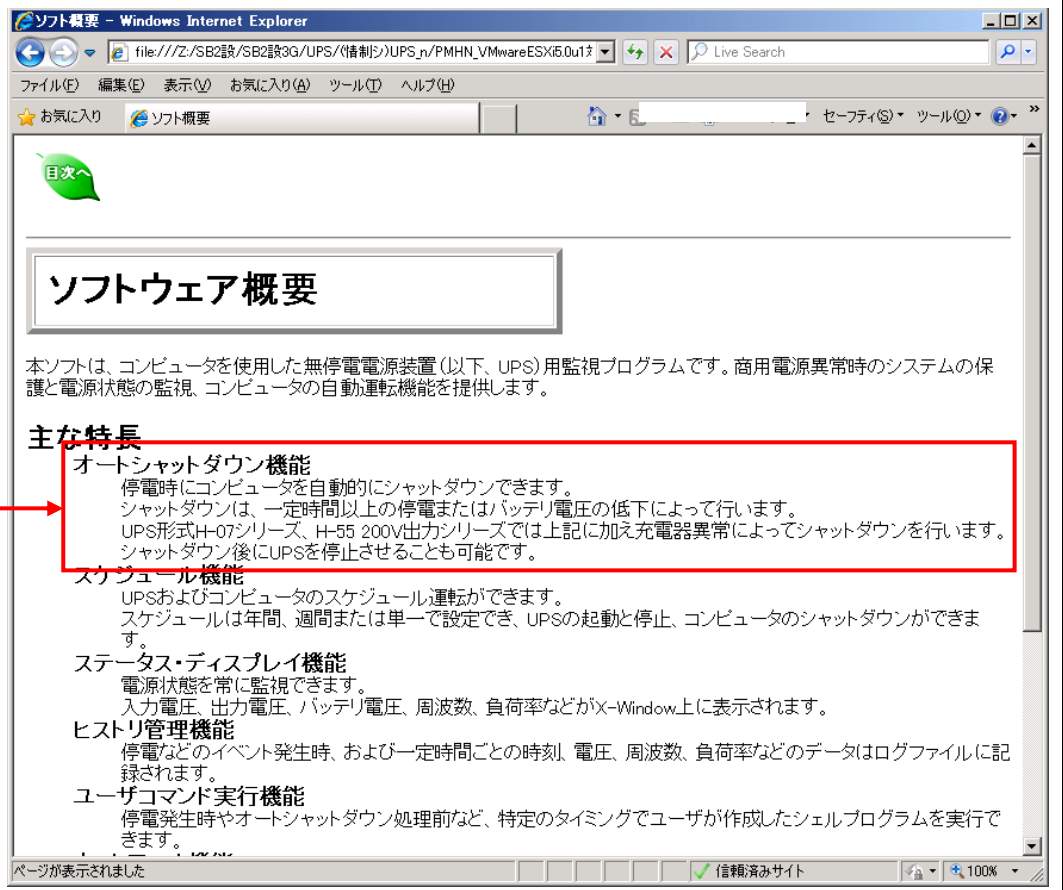


# UPS管理ソフト PowerMonitor HN CD内ユーザーズガイド お詫びと訂正

このたびは、UPS 管理ソフト PowerMonitor HN をお買い求めいただき、誠にありがとうございます。UPS 管理ソフト PowerMonitor HN CD 内に納めているユーザーズガイド(UNIX 版)に訂正箇所があります。謹んでお詫び申し上げます。

## 1. ユーザーズガイド(UNIX 版)

誤	正
<p>「ソフトウェア概要」の項</p>  <p>「ソフトウェア概要」の項</p> <p>本ソフトは、コンピュータを使用した無停電電源装置(以下、UPS)用監視プログラムです。商用電源異常時のシステムの保護と電源状態の監視、コンピュータの自動運転機能を提供します。</p> <p><b>主な特長</b></p> <p><b>オートシャットダウン機能</b> 停電時にコンピュータを自動的にシャットダウンできます。シャットダウンは、一定時間以上の停電またはバッテリー電圧の低下によって行います。シャットダウン後にUPSを停止させることも可能です。</p> <p><b>スケジュール機能</b> UPSおよびコンピュータのスケジュール運転ができます。スケジュールは年間、週間または単一で設定でき、UPSの起動と停止、コンピュータのシャットダウンができます。</p> <p><b>ステータス・ディスプレイ機能</b> 電源状態を常に監視できます。入力電圧、出力電圧、バッテリー電圧、周波数、負荷率などがX-Window上に表示されます。</p> <p><b>ヒストリ管理機能</b> 停電などのイベント発生時、および一定時間ごとの時刻、電圧、周波数、負荷率などのデータはログファイルに記録されます。</p> <p><b>ユーザコマンド実行機能</b> 停電発生時やオートシャットダウン処理前など、特定のタイミングでユーザが作成したシェルプログラムを実行できます。</p> <p><b>UPSの一括管理機能(注1)</b> ネットワーク上の全てのUPSが、スケジュール情報とともにアイコン表示されます。アイコンをクリックすれば、UPSに関する詳細表示を見ることができます。</p>	<p>「ソフトウェア概要」の項</p>  <p>「ソフトウェア概要」の項</p> <p>本ソフトは、コンピュータを使用した無停電電源装置(以下、UPS)用監視プログラムです。商用電源異常時のシステムの保護と電源状態の監視、コンピュータの自動運転機能を提供します。</p> <p><b>主な特長</b></p> <p><b>オートシャットダウン機能</b> 停電時にコンピュータを自動的にシャットダウンできます。シャットダウンは、一定時間以上の停電またはバッテリー電圧の低下によって行います。UPS形式H-07シリーズ、H-55 200V出力シリーズでは上記に加え充電器異常によってシャットダウンを行います。シャットダウン後にUPSを停止させることも可能です。</p> <p><b>スケジュール機能</b> UPSおよびコンピュータのスケジュール運転ができます。スケジュールは年間、週間または単一で設定でき、UPSの起動と停止、コンピュータのシャットダウンができます。</p> <p><b>ステータス・ディスプレイ機能</b> 電源状態を常に監視できます。入力電圧、出力電圧、バッテリー電圧、周波数、負荷率などがX-Window上に表示されます。</p> <p><b>ヒストリ管理機能</b> 停電などのイベント発生時、および一定時間ごとの時刻、電圧、周波数、負荷率などのデータはログファイルに記録されます。</p> <p><b>ユーザコマンド実行機能</b> 停電発生時やオートシャットダウン処理前など、特定のタイミングでユーザが作成したシェルプログラムを実行できます。</p>



\*EMA0014469-A\*

## 「1. インストール」－「コンピュータとUPSの接続」の項

コンピュータとUPSの接続

1. コンピュータおよびUPSの電源を切ります。
2. コンピュータの電源コードをUPS背面の出力コンセントに接続します。
3. UPSの10Base-Tコネクタにネットワークケーブルを接続します。(中継器のネットワークは、10BASE-Tに対応している必要があります。)

**注意** インストール前の確認事項  
DNSサーバ等で名前解決が行える環境になっていることを確認してください。  
hostsファイルによる名前解決を行う場合は「[名前解決の設定方法](#)」を参照してください

**注意** AIX LPAR 構成時の注意事項  
AIX LPAR 構成にインストールする場合、次の設定を有効にしてください。  
ハードウェア・メンテナンス・コンソールの「管理システムプロパティポリシー」の設定。  
「Power off the system after all the logical partitions are powered off.」(有効)

**注意** HP9000のEthernetインタフェースは終端抵抗を内蔵していません。  
HPワークステーション単体で使用する場合は、ネットワーク機器(HUBなど)に接続するかネットワーク機能を使用しない設定でインストールしてください。  
ネットワーク機能を使用しない設定でインストールした場合は、機能制限がありますので「[ネットワーク機能を使用しない設定でインストールした場合の制限事項](#)」を参照してください。

**注意** RedHat Enterprise Linux 6 (x86\_64版)へインストールする場合は、「[RedHat Enterprise Linux 6 \(x86\\_64版\)使用時の制限事項](#)」を参照してください。

**注意** 「ネットワーク機能を使用しない」設定とは、本ソフトのネットワーク機能の一部を使用しないことを示します。本ソフトをインストールしたコンピュータのネットワークが使用できなくなるものではありません。

**インストールプログラムのコピー**

CD-ROMからプログラムを、以下の手順でコンピュータの"/usr"ディレクトリにコピーします。

## 「1. インストール」－「コンピュータとUPSの接続」の項

コンピュータとUPSの接続

1. コンピュータおよびUPSの電源を切ります。
2. コンピュータの電源コードをUPS背面の出力コンセントに接続します。
3. UPSの10Base-Tコネクタにネットワークケーブルを接続します。(中継器のネットワークは、10BASE-Tに対応している必要があります。)

**注意** インストール前の確認事項  
DNSサーバ等で名前解決が行える環境になっていることを確認してください。  
hostsファイルによる名前解決を行う場合は「[名前解決の設定方法](#)」を参照してください

**注意** AIX LPAR 構成時の注意事項  
AIX LPAR 構成にインストールする場合、次の設定を有効にしてください。  
ハードウェア・メンテナンス・コンソールの「管理システムプロパティポリシー」の設定。  
「Power off the system after all the logical partitions are powered off.」(有効)

**注意** HP9000のEthernetインタフェースは終端抵抗を内蔵していません。  
HPワークステーション単体で使用する場合は、ネットワーク機器(HUBなど)に接続するかネットワーク機能を使用しない設定でインストールしてください。  
ネットワーク機能を使用しない設定でインストールした場合は、機能制限がありますので「[ネットワーク機能を使用しない設定でインストールした場合の制限事項](#)」を参照してください。

**注意** RedHat Enterprise Linux 6 (x86\_64版)へインストールする場合は、「[RedHat Enterprise Linux 6 \(x86\\_64版\)使用時の制限事項](#)」を参照してください。

**注意** 「ネットワーク機能を使用しない」設定とは、本ソフトのネットワーク機能の一部を使用しないこと。本ソフトをインストールしたコンピュータのネットワークが使用できなくなるものではありません。

**注意** 本ソフトウェアがUPSとの通信に使用可能なIPアドレスが複数ある場合は、使用するIPアドレスはオペレーティングシステムが任意に決定します。オペレーティングシステムが任意に決定した複数のIPアドレスを使用して、本ソフトウェアがUPSと通信を行ってしまうとUPS側で不定ホストが発生します。UPSは不定ホストが存在すると、停電時やスケジュール停止の際のUPS出力停止が正常に動作しません。コンピュータにはUPSと通信可能なIPアドレスが1つとなるようにネットワークを構築する必要があります。

追加

### 「2. 動作確認」－「停電動作のチェック」の項

※ホスト名は最大で16文字までしか表示されません。

(moon) 電源異常が発生しました！

シャットダウン処理までの時間 30

- UPSの電源を入れて、復電状態にします。
- 緑色の文字で次のメッセージが表示されることを確認します。この表示は30秒後に自動的に消えます。

**「復電しました」(Recovered...)**

- もう一度UPSの電源を切って、バークラフ右のシャットダウン処理までの時間が「30」になるまでそのままの状態を保ちます。
- 30になると、赤色の文字で次のメッセージが(一方だけまたは両方が交互に)表示されることを確認します。

**「シャットダウン」(Shutdown now !)**  
**「セッションを終了してください」(Close session please)**

- メッセージの表示後、約30秒(シャットダウン遅延時間)が経過するとシャットダウン処理が行われ、コンピュータがシャットダウンすることを確認します。
- UPSの電源を入れて、復電します。UPSが自動でコンピュータに電源供給を一度停止し、数十秒後、電源供給を開始したことを確認します。このとき電源供給で自動起動するコンピュータはブートアップします。

**注意** 停電以外にもバッテリー電圧低下と(UPSの設定によっては)UPS故障はシャットダウン処理につながります。

### 「2. 動作確認」－「停電動作のチェック」の項

(moon) 電源異常が発生しました！

シャットダウン処理までの時間 30

- UPSの電源を入れて、復電状態にします。
- 緑色の文字で次のメッセージが表示されることを確認します。この表示は30秒後に自動的に消えます。

**「復電しました」(Recovered...)**

- もう一度UPSの電源を切って、バークラフ右のシャットダウン処理までの時間が「30」になるまでそのままの状態を保ちます。
- 30になると、赤色の文字で次のメッセージが(一方だけまたは両方が交互に)表示されることを確認します。

**「シャットダウン」(Shutdown now !)**  
**「セッションを終了してください」(Close session please)**

- メッセージの表示後、約30秒(シャットダウン遅延時間)が経過するとシャットダウン処理が行われ、コンピュータがシャットダウンすることを確認します。
- UPSの電源を入れて、復電します。UPSが自動でコンピュータに電源供給を一度停止し、数十秒後、電源供給を開始したことを確認します。このとき電源供給で自動起動するコンピュータはブートアップします。

**注意** シャットダウン処理開始条件 停電が発生し停電確認時間を経過した場合にシャットダウン処理をしますが、  
・バッテリー電圧低下  
・充電器異常 [UPS機種限定:H-07シリーズ、H-55 200V出力シリーズ]  
が発生した場合にもシャットダウン処理を行います。コンピュータを自動的にシャットダウンする判定条件の詳細は、付録Bを参照ください。

誤

### 「3. 動作条件の設定 (GUI 環境編)」 - 「動作環境(Op Cond)」の項

監視コミュニティ(Monitoring Community) ※システムリポートが必要  
PowerMonitorHNが使用する監視用コミュニティ名を設定します。  
※UPS側の監視用コミュニティ名は「pwrmon」で固定ですので、デフォルトから変更しないでください。

ネットワークインタフェース名 (Network Interface Name) ※システムリポートが必要  
ネットワークのインタフェース名を指定します。

ログファイル名 (Log File Name) ※システムリポートが必要  
ログファイルのパスを指定します。マルチUPS対応版PowerMonitorHNをインストールして使用する場合は、[「マルチUPS環境設定」](#)の「tty-list」の「設定値」で指定した数(1~8)に対応して、デフォルトのパスの場合、下記のログファイルが作成されます。  
/usr/ups/log/upslog1 (監視対象UPS1のログファイル)  
/usr/ups/log/upslog2 (監視対象UPS2のログファイル)  
.....  
/usr/ups/log/upslog8 (監視対象UPS8のログファイル)

**ログの記録期間 (Log Record Period) ※システムリポートが必要**  
ログの記録期間を設定します。単位は「year」「month」「week」「day」「record」「rotate」が選択できます。「rotate」を指定すると、1ヶ月サイズのログファイルが、インデックス付きで指定ローテーション数だけ作られます。

シャットダウンスクリプト (Shutdown Script)  
スクリプトファイルのパスを指定します。[スクリプトの編集] ボタンをクリックすると、エディタが起動してスクリプトファイルの編集ができます。

**MEMO** スクリプトについては、[「スクリプト」](#)を参照してください。

実行レベル (Execute Level)  
スクリプトの実行レベルを指定します。1~7が選択できます。1~7の範囲外の値では正常に動作しません。

ステータスのブロードキャスト (Status Broadcast) ※システムリポートが必要

正

### 「3. 動作条件の設定 (GUI 環境編)」 - 「動作環境(Op Cond)」の項

監視コミュニティ(Monitoring Community) ※システムリポートが必要  
PowerMonitorHNが使用する監視用コミュニティ名を設定します。  
※UPS側の監視用コミュニティ名は「pwrmon」で固定ですので、デフォルトから変更しないでください。

ネットワークインタフェース名 (Network Interface Name) ※システムリポートが必要  
ネットワークのインタフェース名を指定します。

ログファイル名 (Log File Name) ※システムリポートが必要  
ログファイルのパスを指定します。マルチUPS対応版PowerMonitorHNをインストールして使用する場合は、[「マルチUPS環境設定」](#)の「tty-list」の「設定値」で指定した数(1~8)に対応して、デフォルトのパスの場合、下記のログファイルが作成されます。  
/usr/ups/log/upslog1 (監視対象UPS1のログファイル)  
/usr/ups/log/upslog2 (監視対象UPS2のログファイル)  
.....  
/usr/ups/log/upslog8 (監視対象UPS8のログファイル)

**ログの記録期間 (Log Record Period) ※システムリポートが必要**  
ログの記録期間を設定します。単位は「year」「month」「week」「day」「record」「rotate」が選択できます。「rotate」を指定すると、1ヶ月サイズのログファイルが、インデックス付きで指定ローテーション数だけ作られます。  
下記に「ログ記録期間=3 rotate」とした時の例を示します。  
upslog1 ←当月分のログデータファイル  
upslog1.1 ←先月分のログデータファイル  
upslog1.2 ←先々月分のログデータファイル  
upslog1.3 ←3ヶ月前のログデータファイル  
3ヶ月を過ぎたデータは削除されます。  
「record」を指定すると、1レコード単位でのログの記録期間の指定が可能です。  
仮に、ログの記録期間を10とした場合は、ログファイルの更新タイミング(約1日半)で、最新の10レコードを残して削除されます。

シャットダウンスクリプト (Shutdown Script)  
スクリプトファイルのパスを指定します。[スクリプトの編集] ボタンをクリックすると、エディタが起動してスクリプトファイルの編集ができます。

## 「3. 動作条件の設定 (GUI 環境編)」 - 「メール(Mail)」の項

送信タイミング	電子メールの送信メッセージ	メッセージ(英語)
停電発生時 multi-ups.confのshutdown-condで設定した数以上のUPSが停電した時	“停電が発生しました。”	“Power fail.”
シャットダウン時	“シャットダウンします。”	“System shutdown now.”
復電時 停電確認時間内に停電発生条件が解消された時	“復電しました。”	“Restoration...”
回復不能とみなされた時	“シャットダウンします。”	“Failed to restore.”
スケジュール運転での停止時	“スケジュール停止時刻になりました。シャットダウンします。”	“Shutdown by scheduler.”
UPSと通信できない時 multi-ups.confのcomm-err-condで設定した数以上のUPSと通信できない時(稼働中、起動時)	“通信エラーが発生しました。”	“Communication error.”
UPSに障害が発生した時 multi-ups.confのalarm-condで設定した数以上のUPSが故障した時	“UPS異常が発生しました。”	“UPS trouble.”
初期化エラー時 multi-ups.confのstartup-condで設定した起動判定条件に満たない時	“UPSの初期化に失敗しました。”	“Failed to Initialize UPS.”
20日以上連続運転時(20日毎)	“UPSサービスは正常に動いています。”	“UPS is running OK.”

※multi-ups.confの設定値は「マルチUPS環境設定」を参照してください。

**電子メール送信 (Send E-Mail)**  
電子メールを送信するかどうかを、設定します。有効にすれば、電子メールが送信されます。

**SMTPサーバアドレス (SMTP Server Address)**

## 「3. 動作条件の設定 (GUI 環境編)」 - 「メール(Mail)」の項

送信タイミング	電子メールの送信メッセージ	メッセージ(英語)
停電発生時 multi-ups.confのshutdown-condで設定した数以上のUPSが停電した時	“停電が発生しました。”	“Power fail.”
シャットダウン時	“シャットダウンします。”	“System shutdown now.”
復電時 停電確認時間内に停電発生条件が解消された時	“復電しました。”	“Restoration...”
回復不能とみなされた時	“シャットダウンします。”	“Failed to restore.”
スケジュール運転での停止時	“スケジュール停止時刻になりました。シャットダウンします。”	“Shutdown by scheduler.”
UPSと通信できない時 multi-ups.confのcomm-err-condで設定した数以上のUPSと通信できない時(稼働中、起動時)	“通信エラーが発生しました。”	“Communication error.”
UPSに障害が発生した時 multi-ups.confのalarm-condで設定した数以上のUPSが故障した時	“UPS異常が発生しました。”	“UPS trouble.”
初期化エラー時 multi-ups.confのstartup-condで設定した起動判定条件に満たない時	“UPSの初期化に失敗しました。”	“Failed to Initialize UPS.”
20日以上連続運転時(20日毎)	“UPSサービスは正常に動いています。”	“UPS is running OK.”
故障リセット時	“UPS異常が解除されました。”	“UPS trouble restored.”

※multi-ups.confの設定値は「マルチUPS環境設定」を参照してください。

**電子メール送信 (Send E-Mail)**  
電子メールを送信するかどうかを、設定します。有効にすれば、電子メールが送信されます。

追加



### 「4. 動作条件の設定 (CUI 環境編)」 - 「動作環境」の項

動作条件の設定 - Windows Internet Explorer

ifname(ネットワークインタフェース名) ※システムリポートが必要  
ネットワークのインタフェース名を指定します。

upslog(ログファイル名) ※システムリポートが必要  
ログファイルのパスを指定します。マルチUPS対応版PowerMonitorHNをインストールして使用する場合は、「マルチUPS環境設定」の「tty-list」の「設定値」で指定した数(1~8)に対応して、デフォルトのパスの場合、下記のログファイルが作成されます。

```

/usr/ups/log/upslog1 (監視対象UPS1のログファイル)
/usr/ups/log/upslog2 (監視対象UPS2のログファイル)
.....
/usr/ups/log/upslog8 (監視対象UPS8のログファイル)

```

**history(ログの記録期間)** ※システムリポートが必要  
ログの記録期間を設定します。単位は「year」「month」「week」「day」「record」「rotate」のいずれかを入力します。「rotate」を指定すると、1ヶ月サイズのログファイルが、インデックス付きで指定ローテーション数だけ作られます。

upsrc(シャットダウンスクリプト)  
スクリプトファイルのパスを指定します。

MEMO  
スクリプトについては、「スクリプト」を参照してください。

商用電源: 停電, 復電, 停電

UPS出力: 停電確認(時間 30秒), 正常運転, 停電確認(時間 30秒), シャットダウン(遅延時間 30秒), シャットダウン(処理), 自動停止時間

本ソフト: ③, ⑤, ③, ②, ①

### 「4. 動作条件の設定 (CUI 環境編)」 - 「動作環境」の項

動作条件の設定 - Windows Internet Explorer

3.ifname(ネットワークインタフェース名) ※システムリポートが必要  
ネットワークのインタフェース名を指定します。

4.upslog(ログファイル名) ※システムリポートが必要  
ログファイルのパスを指定します。マルチUPS対応版PowerMonitorHNをインストールして使用する場合は、「マルチUPS環境設定」の「tty-list」の「設定値」で指定した数(1~8)に対応して、デフォルトのパスの場合、下記のログファイルが作成されます。

```

/usr/ups/log/upslog1 (監視対象UPS1のログファイル)
/usr/ups/log/upslog2 (監視対象UPS2のログファイル)
.....
/usr/ups/log/upslog8 (監視対象UPS8のログファイル)

```

**5.history(ログの記録期間)** ※システムリポートが必要  
ログの記録期間を設定します。単位は「year」「month」「week」「day」「record」「rotate」のいずれかを入力します。「rotate」を指定すると、1ヶ月サイズのログファイルが、インデックス付きで指定ローテーション数だけ作られます。下記に「ログ記録期間=3 rotate」とした時の例を示します。

```

upslog1 ← 当月分のログデータファイル
upslog1.1 ← 先月分のログデータファイル
upslog1.2 ← 先々月分のログデータファイル
upslog1.3 ← 3ヶ月前のログデータファイル

```

3ヶ月を過ぎたデータは削除されます。「record」を指定すると、1レコード単位でのログの記録期間の指定が可能です。仮に、ログの記録期間を10とした場合は、ログファイルの更新タイミング(約1日半)で、最新の10レコードを残して削除されます。

6.upsrc(シャットダウンスクリプト)  
スクリプトファイルのパスを指定します。

MEMO  
スクリプトについては、「スクリプト」を参照してください。

## 「4. 動作条件の設定 (CUI 環境編)」 - 「トラップ」の項

動作条件の設定 - Windows Internet Explorer

Z:\SB2設\SB2設3GW\UPS\*(情制シ)\UPS\_n\*(情制)\UPSマニュアル#2012年2月時...

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

お気に入り 動作条件の設定

**snmptrap (SNMPトラップ送信)**  
 トラップを送信するかどうかを、設定します。「on」にすれば、SNMPv1トラップを送信します。デフォルトは「off」です。  
 送信できるトラップは、次の3種類です。

停電時 異常時	enterpriseSpecific(6)	upsTrapOnBattery	33.2.1.0
シャットダウン時 バイパス給電時 故障時		upsTrapAlarmEntryAdded	33.2.3.0
復電時		upsTrapAlarmEntryRemoved	33.2.4.0

**community (SNMPコミュニティ)**  
 SNMPトラップのコミュニティを設定します。

**trapto (トラップ送信先)**  
 送信先のホスト名またはIPアドレスを指定します。最大3か所まで指定できます。

メール

Configuration

```

1. sendmail: off
2. mailserv: (null)
3. mailfrom: (null)
4. mailto: (null)
5. mailups: (null)
6. mailnolog: 0

```

You can select item #(1-6) to change value, or  
 put [N]ext/[P]rev/[Q]uit command for page operation.  
 => █

実際のレイアウトと数値は図と異なることがあります

信頼済みサイト 100%

## 「4. 動作条件の設定 (CUI 環境編)」 - 「トラップ」の項

動作条件の設定 - Windows Internet Explorer

Z:\SB2設\SB2設3GW\UPS\*(情制シ)\UPS\_n\*PMHN\_VMwareESX(i5.0u1対応版)\*改...

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

お気に入り 動作条件の設定

**1. snmptrap (SNMPトラップ送信)**  
 トラップを送信するかどうかを、設定します。「on」にすれば、SNMPv1トラップを送信します。デフォルトは「off」です。  
 送信できるトラップは、次の3種類です。

停電時 異常時	enterpriseSpecific(6)	upsTrapOnBattery	33.2.1.0
シャットダウン時 バイパス給電時 故障時		upsTrapAlarmEntryAdded	33.2.3.0
復電時		upsTrapAlarmEntryRemoved	33.2.4.0

**2. community (SNMPコミュニティ)**  
 SNMPトラップのコミュニティを設定します。

**3. trapto (トラップ送信先)**  
 送信先のホスト名またはIPアドレスを指定します。最大3か所まで指定できます。  
 複数の送信先を指定する場合は、送信先のホスト名またはIPアドレスを"/" (カンマ) で区切って指定してください。

メール

Configuration

```

1. sendmail: off
2. mailserv: (null)
3. mailfrom: (null)
4. mailto: (null)
5. mailups: (null)
6. mailnolog: 0

```

You can select item #(1-6) to change value, or  
 put [N]ext/[P]rev/[Q]uit command for page operation.

実際のレイアウトと数値は図と

信頼済みサイト 100%

## 「4. 動作条件の設定 (CUI 環境編)」 - 「メール(Mail)」の項

送信タイミング	電子メールの送信メッセージ	メッセージ(英語)
停電発生時 multi-ups.confのshutdown-condで設定した数以上のUPSが停電した時	“停電が発生しました。”	“Power fail.”
シャットダウン時	“シャットダウンします。”	“System shutdown now.”
復電時 停電確認時間内に停電発生条件が解消された時	“復電しました。”	“Restoration...”
回復不能とみなされた時	“シャットダウンします。”	“Failed to restore.”
スケジュール運転での停止時	“スケジュール停止時刻になりました。シャットダウンします。”	“Shutdown by scheduler.”
UPSと通信できない時 multi-ups.confのcomm-err-condで設定した数以上のUPSと通信できない時(稼働中、起動時)	“通信エラーが発生しました。”	“Communication error.”
UPSに障害が発生した時 multi-ups.confのalarm-condで設定した数以上のUPSが故障した時	“UPS異常が発生しました。”	“UPS trouble.”
初期化エラー時 multi-ups.confのstartup-condで設定した起動判定条件に満たない時	“UPSの初期化に失敗しました。”	“Failed to Initialize UPS.”
20日以上連続運転時(20日毎)	“UPSサービスは正常に動いています。”	“UPS is running OK.”

※multi-ups.confの設定値は「[マルチUPS環境設定](#)」を参照してください。

**sendmail(電子メール送信)**  
電子メールを送信するかどうかを、設定します。「on」にすれば、電子メールが送信されます。送信されるタイミングは、停電時、シャットダウン、復電時、バイパス給電時、異常時、故障時、初期化エラー時および、監視デモンが、正常に動作していることを知らせるために20日以上連続運転した場合に20日毎にメールが送信さ

## 「4. 動作条件の設定 (CUI 環境編)」 - 「メール(Mail)」の項

送信タイミング	電子メールの送信メッセージ	メッセージ(英語)
停電発生時 multi-ups.confのshutdown-condで設定した数以上のUPSが停電した時	“停電が発生しました。”	“Power fail.”
シャットダウン時	“シャットダウンします。”	“System shutdown now.”
復電時 停電確認時間内に停電発生条件が解消された時	“復電しました。”	“Restoration...”
回復不能とみなされた時	“シャットダウンします。”	“Failed to restore.”
スケジュール運転での停止時	“スケジュール停止時刻になりました。シャットダウンします。”	“Shutdown by scheduler.”
UPSと通信できない時 multi-ups.confのcomm-err-condで設定した数以上のUPSと通信できない時(稼働中、起動時)	“通信エラーが発生しました。”	“Communication error.”
UPSに障害が発生した時 multi-ups.confのalarm-condで設定した数以上のUPSが故障した時	“UPS異常が発生しました。”	“UPS trouble.”
初期化エラー時 multi-ups.confのstartup-condで設定した起動判定条件に満たない時	“UPSの初期化に失敗しました。”	“Failed to Initialize UPS.”
20日以上連続運転時(20日毎)	“UPSサービスは正常に動いています。”	“UPS is running OK.”
故障リセット時	“UPS異常が解除されました。”	“UPS trouble restored.”

※multi-ups.confの設定値は「[マルチUPS環境設定](#)」を参照してください。

**1.sendmail(電子メール送信)**  
電子メールを送信するかどうかを、設定します。「on」にすれば、電子メールが送信されます。送信されるタイミングは、停電時、シャットダウン、復電時、バイパス給電時、異常時、故障時、初期化エラー時および、監視デ



## 「4. 動作条件の設定 (CUI 環境編)」 - 「メール(Mail)」の項

動作条件の設定 - Windows Internet Explorer

Z:\SB2\SB2\3G\UPS\*(情制シ)UPS\_r\*(情制)UPSマニュアル#2012年2月時...

Live Search

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

お気に入り 動作条件の設定

sendmail(電子メール送信)  
電子メールを送信するかどうかを、設定します。「on」にすれば、電子メールが送信されます。送信されるタイミングは、停電時、シャットダウン、復電時、バイパス給電時、異常時、故障時、初期化エラー時および、監視デモンが、正常に動作していることを知らせるために20日以上連続運転した場合に20日毎にメールが送信されます。

mailserv(SMTPサーバアドレス)  
電子メールを配信するSMTPサーバを入力してください。ホスト名、IPアドレスどちらでもかまいません。

mailfrom(メール発信者)  
メール発信者を入力してください。ここで入力された内容が、受信メールの発信元に表示されます。ただし、メールアドレスの文字数は24文字以内としてください。

**mailto(メール受取人)**  
メールの宛て先を入力してください。3か所までメールを送ることができます。ただし、メールアドレスの文字数は24文字以内としてください。

mailups(添付文字列)  
メール本文に付ける識別用の文字列を入力してください。

mailnlog(添付ログ件数)  
メール本文に付けるUPSログの件数を入力します。ただし、入力する件数は16件以内としてください。17件以上入力すると正常に動作しません。

MEMO 送信されるメールの詳細内容は、「[メールで送信される内容](#)」を参照してください。

セキュリティの変更画面

信頼済みサイト 100%

## 「4. 動作条件の設定 (CUI 環境編)」 - 「メール(Mail)」の項

動作条件の設定 - Windows Internet Explorer

Z:\SB2\SB2\3G\UPS\*(情制シ)UPS\_r\*PMHN\_VMwareESX6.0u1対応版#改...

Live Search

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

お気に入り 動作条件の設定

1.sendmail(電子メール送信)  
電子メールを送信するかどうかを、設定します。「on」にすれば、電子メールが送信されます。送信されるタイミングは、停電時、シャットダウン、復電時、バイパス給電時、異常時、故障時、初期化エラー時および、監視デモンが、正常に動作していることを知らせるために20日以上連続運転した場合に20日毎にメールが送信されます。

2.mailserv(SMTPサーバアドレス)  
電子メールを配信するSMTPサーバを入力してください。ホスト名、IPアドレスどちらでもかまいません。

3.mailfrom(メール発信者)  
メール発信者を入力してください。ここで入力された内容が、受信メールの発信元に表示されます。ただし、メールアドレスの文字数は24文字以内としてください。

**4.mailto(メール受取人)**  
メールの宛て先を入力してください。3か所までメールを送ることができます。ただし、メールアドレスの文字数は24文字以内としてください。複数のメール受取人を指定する場合は、メールの宛先を"/,(カンマ)で区切って指定してください。

5.mailups(添付文字列)  
メール本文に付ける識別用の文字列を入力してください。

6.mailnlog(添付ログ件数)  
メール本文に付けるUPSログの件数を入力します。ただし、入力する件数は16件以内としてください。17件以上入力すると正常に動作しません。

MEMO 送信されるメールの詳細内容は、「[メールで送信される内容](#)」を参照してください。

セキュリティの変更画面

信頼済みサイト 100%

誤

### 「5. スクリプト」に「スクリプトの編集例」の項追加

```

_send_trap
}

#main routine
PATH=/bin:/sbin:/usr/bin:/usr/sbin:/etc:

#parameters
STATE=$1
OPTION1=$2
OPTION2=$3
OPTION3=${4:-`date+%y%m%d%H%M`}

#execute
case $STATE in
1)_do_shutdown;;
2)_pre_shutdown;;
3)_detect_power_fail;;
5)_recovered;;
9)_send_trap;;
12)_send_trap;;
13)_send_hello_mail;;
esac

exit 0

```

**MEMO** スクリプトをカスタマイズする場合、古いバージョンのポーンシェルでは、上記例の関数タイプが使用できないものもあります。

目次へ HELP

ページが表示されました 信頼済みサイト 100%

正

### 「5. スクリプト」に「スクリプトの編集例」の項追加

追加

### スクリプトの編集例

スクリプトの編集例を下記に示します。  
下記例では、rclever:4、rclerver:6、rclerver:7(赤字部分)を追加しています。

```

#!/bin/sh
#
#
##$Header: UPS Shutdown,v 3.0 03/05/27 20:48:17 root Rel40 $ ZIRION NETWORKS;
#
#-----
# # easytrap ... Send snmp trap to assigned hosts.
# # easytrap -u ... Send udp trap which can be recognized by xups
# # beyond some routers.
# # upsmail ... Send mail to assigned hosts.
#
#send snmp trap & E-mail
#
# STATE=1 ... shutdown
# STATE=3 ... power failure
# STATE=5 ... restored
# STATE=6 ... starting-up
# STATE=9 ... other alarms
# STATE=12 ... including 1-6
#
_send_trap()
{
if ["$STATE" = "12"]; then

```

ページが表示されました 信頼済みサイト 100%

## 「5. スクリプト」に「スクリプトの編集例」の項追加(続き)

```

_send_trap()
{
    if [ "$STATE" = "12" ]; then
        STATE=$OPTION2
    fi
    if [ -x INSTALL_DIR/bin/easytrap ]; then
        if [ "$STATE" = "9" ]; then
            INSTALL_DIR/bin/easytrap -t 6 $OPTION2 $OPTION1 >/dev/null 2>&1
        else
            INSTALL_DIR/bin/easytrap $STATE $OPTION1 >/dev/null 2>&1
        fi
    fi
    if [ -x INSTALL_DIR/bin/upsmail ]; then
        INSTALL_DIR/bin/upsmail -sj $STATE $OPTION2 >/dev/null2>&1
    fi
}

#send hello E-mail
_send_hello_mail()
{
    if [ -x INSTALL_DIR/bin/upsmail ]; then
        INSTALL_DIR/bin/upsmail -sj $STATE $OPTION2 >/dev/null2>&1
    fi
}

# shutdown process (シャットダウン処理)

```

## 「5. スクリプト」に「スクリプトの編集例」の項追加(続き)

```

# shutdown process (シャットダウン処理)
_do_shutdown()
{
    シャットダウン時に何か処理を入れるときは、こちらにコマンドを入れてください。
    _send_trap
#shutdown
SYSNAME=`uname -s`
cd /
if [ "$SYSNAME" = "HI-UX" ]; then
    /etc/shutdown >/dev/console 2>&1
else
    /etc/shutdown -h -y now>/dev/console 2>&1
fi
}

# pre-shutdown process (シャットダウン前処理)
_pre_shutdown()
{
    データベースの終了処理など
    _send_trap
}

# power trouble occurred (停電検知処理)
_detect_power_fail()
{
    ファイルのバックアップ処理など
    _send_trap
}

_recovered()
{
    _send_trap
}

#rclevel4用の処理を追加

```

## 「5. スクリプト」に「スクリプトの編集例」の項追加(続き)

```

#rclevel4用の処理を追加
Sched_stop0
{
    スケジュール停止時の処理をここに記述します。
}

#rclevel6用の処理を追加
StartUPO
{
    スタートアップ時の処理をここに記述します。
}

#rclevel7用の処理を追加
Sched_PreStop0
{
    スケジュール運転での停止時の処理をここに記述します。
}

#main routine
PATH=/bin:/sbin:/usr/bin:/usr/sbin:/etc.

#parameters
STATE=$1
OPTION1=$2
OPTION2=$3
OPTION3=${4:-`date+%Y%m%d%H%M`}

#execute

```

## 「5. スクリプト」に「スクリプトの編集例」の項追加(続き)

```

#execute
case $STATE in
1) do_shutdown;;
2) pre_shutdown;;
3) detect_power_fail;;
4) Sched_Stop;;           ←caseに対応したrclevel:4用の呼び出し処理を追加
5) recovered;;
6) StartUp;;             ←caseに対応したrclevel:6用の呼び出し処理を追加
7) Sched_PreStop;;      ←caseに対応したrclevel:7用の呼び出し処理を追加
9) send_trap;;
12) send_trap;;
13) send_hello_mail;;
esac

exit 0

```

MEMO スクリプトをカスタマイズする場合、古いバージョンのポーンシェルでは、上記例の関数タイプが使用できないものもあります。

目次へ HELP

「6. スケジュール運転 (GUI 環境編)」 - 「スケジュール設定のルール」の項

**スケジュール設定のルール**

**週間・年間スケジュール**  
 ○終了と起動を対で入力してください。  
 ○同日に終了が先、起動が後になる設定は行わないでください。

**単一スケジュール**  
 ○終了のみで入力するか、終了が先で起動が後の対で入力してください。

**優先度**  
 ○スケジュールの優先順位は、単一スケジュールが最優先で、  
 1.単一スケジュール > 2.年間スケジュール > 3.週間スケジュール の順です。  
 ○日々の高優先のスケジュールパターンが実行されます。  
 <例>12月29日月曜日に単一を追加設定した場合

週間	日 08:00 21:00	月 08:00 21:00	火 08:00 21:00	水 08:00 21:00	木 08:00 21:00	金 08:00 21:00	土 08:00 21:00
年間		12/29(月) 10:00 18:00	12/30(火) XXXXXXXX	12/31(水) XXXXXXXX	1/1(木) XXXXXXXX	1/2(金) 09:00 21:00	1/3(土)
単一		12/29(月) 15:00					1/3(土) 10:00

「6. スケジュール運転 (GUI 環境編)」 - 「スケジュール設定のルール」の項

**スケジュール設定のルール**

**週間・年間スケジュール**  
 ○終了と起動を対で入力してください。  
 ○同日に終了が先、起動が後になる設定は行わないでください。

**単一スケジュール**  
 ○終了が先で起動が後の対で入力してください。

**優先度**  
 ○スケジュールの優先順位は、単一スケジュールが最優先で、  
 1.単一スケジュール > 2.年間スケジュール > 3.週間スケジュール の順です。  
 ○日々の高優先のスケジュールパターンが実行されます。  
 <例>12月29日月曜日に単一を追加設定した場合

週間	日 08:00 21:00	月 08:00 21:00	火 08:00 21:00	水 08:00 21:00	木 08:00 21:00	金 08:00 21:00	土 08:00 21:00
年間		12/29(月) 10:00 18:00	12/30(火) XXXXXXXX	12/31(水) XXXXXXXX	1/1(木) XXXXXXXX	1/2(金) 09:00 21:00	1/3(土)
単一		12/29(月) 15:00					1/3(土) 10:00



「8. スケジュール運転 (CUI 環境編)」 - 「スケジュール設定のルール」の項

**スケジュール設定のルール**

**週間・年間スケジュール**  
 ○終了と起動を対で入力してください。  
 ○同日に終了が先、起動が後になる設定は行わないでください。

**単一スケジュール**  
 ○終了のみで入力するか、終了が先で起動が後の対で入力してください。

**優先度**  
 ○スケジュールの優先順位は、単一スケジュールが最優先で、  
 1.単一スケジュール > 2年間スケジュール > 3週間スケジュールの順です。  
 ○日々の高優先のスケジュールパターンが実行されます。  
 <例>12月29日月曜日に単一を追加設定した場合

	日	月	火	水	木	金	土
週間	08:00 21:00	08:00 21:00	08:00 21:00	08:00 21:00	08:00 21:00	08:00 21:00	08:00 21:00
年間		12/29(月) 10:00 18:00	12/30(火) XXXX	12/31(水) XXXX	1/1(木) XXXX	1/2(金) 09:00 21:00	1/3(土)
単一		12/29(月) 15:00					1/3(土) 10:00

「8. スケジュール運転 (CUI 環境編)」 - 「スケジュール設定のルール」の項

**スケジュール設定のルール**

**週間・年間スケジュール**  
 ○終了と起動を対で入力してください。  
 ○同日に終了が先、起動が後になる設定は行わないでください。

**単一スケジュール**  
 ○終了が先で起動が後の対で入力してください。

**優先度**  
 ○スケジュールの優先順位は、単一スケジュールが最優先で、  
 1.単一スケジュール > 2年間スケジュール > 3週間スケジュールの順です。  
 ○日々の高優先のスケジュールパターンが実行されます。  
 <例>12月29日月曜日に単一を追加設定した場合

	日	月	火	水	木	金	土
週間	08:00 21:00	08:00 21:00	08:00 21:00	08:00 21:00	08:00 21:00	08:00 21:00	08:00 21:00
年間		12/29(月) 10:00 18:00	12/30(火) XXXX	12/31(水) XXXX	1/1(木) XXXX	1/2(金) 09:00 21:00	1/3(土)
単一		12/29(月) 15:00					1/3(土) 10:00

「付録A」

付録 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

**障害情報詳細**  
 左から1桁目は、「1」のとき「起動時バッテリ電圧不足」発生、「0」のとき未発生  
 左から2桁目は、「1」のとき「出力過電圧」発生、「0」のとき未発生  
 左から3桁目は、「1」のとき「出力不足電圧」発生、「0」のとき未発生  
 左から4桁目は、「1」のとき「出力過電流」発生、「0」のとき未発生  
 左から5桁目は、「1」のとき「UPS自己診断異常」発生、「0」のとき未発生  
 左から6桁目は、「1」のとき「バッテリ放電終止」発生、「0」のとき未発生  
 左から7桁目は、「1」のとき「直流低電圧」発生、「0」のとき未発生  
 左から8桁目は、「1」のとき「直流過電圧」発生、「0」のとき未発生  
 左から9桁目は、「1」のとき「過負荷3」発生、「0」のとき未発生  
 左から10桁目は、「1」のとき「過負荷2」発生、「0」のとき未発生  
 左から11桁目は、「1」のとき「過負荷1」発生、「0」のとき未発生  
 左から12桁目は、「1」のとき「温度異常」発生、「0」のとき未発生  
 左から13桁目は、「1」のとき「充電器異常」発生、「0」のとき未発生  
 左から14桁目は、「1」のとき「バッテリ寿命予告」発生、「0」のとき未発生  
 左から15桁目は、「1」のとき「バッテリ過電圧」発生、「0」のとき未発生  
 左から16桁目は、「1」のとき「出力過電流連続5回」発生、「0」のとき未発生  
 左から17-24桁目は、予備

障害情報に対する処置

```

  graph TD
    Start([障害情報に対する処置]) --> D1{「充電器異常」発生}
    D1 -- Yes --> A1[給電が切れますので、接続機器は速やかに停止ください。  
このUPSはご使用にならないでください。  
販売店へご相談ください。]
    D1 -- No --> D2{「出力過電圧」または、「直流過電圧」発生}
    D2 -- Yes --> A2[UPSの交換が必要です。  
販売店へご相談ください。]
  
```

ページが表示されました

マイコンピュータ

「付録A」

付録 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

**障害情報詳細**  
 左から1桁目は、「1」のとき「起動時バッテリ電圧不足」発生、「0」のとき未発生  
 左から2桁目は、「1」のとき「出力過電圧」発生、「0」のとき未発生  
 左から3桁目は、「1」のとき「出力不足電圧」発生、「0」のとき未発生  
 左から4桁目は、「1」のとき「出力過電流」発生、「0」のとき未発生  
 左から5桁目は、「1」のとき「UPS自己診断異常」発生、「0」のとき未発生  
 左から6桁目は、「1」のとき「バッテリ放電終止」発生、「0」のとき未発生  
 左から7桁目は、「1」のとき「直流低電圧」発生、「0」のとき未発生  
 左から8桁目は、「1」のとき「直流過電圧」発生、「0」のとき未発生  
 左から9桁目は、「1」のとき「過負荷3」発生、「0」のとき未発生  
 左から10桁目は、「1」のとき「過負荷2」発生、「0」のとき未発生  
 左から11桁目は、「1」のとき「過負荷1」発生、「0」のとき未発生  
 左から12桁目は、「1」のとき「温度異常」発生、「0」のとき未発生  
 左から13桁目は、「1」のとき「充電器異常」発生、「0」のとき未発生  
 左から14桁目は、「1」のとき「バッテリ寿命予告」発生、「0」のとき未発生  
 左から15桁目は、「1」のとき「バッテリ過電圧」発生、「0」のとき未発生  
 左から16桁目は、「1」のとき「出力過電流連続5回」発生、「0」のとき未発生  
 左から17-24桁目は、予備

障害情報に対する処置

```

  graph TD
    Start([障害情報に対する処置]) --> D1{「充電器異常」発生}
    D1 -- Yes --> A1[給電が切れますので、接続機器は速やかに停止ください。  
このUPSはご使用にならないでください。  
販売店へご相談ください。]
    D1 -- No --> D2{「出力過電圧」または、「直流過電圧」発生}
    D2 -- Yes --> A2[UPSの交換が必要です。  
販売店へご相談ください。]
  
```

※UPS形式H-07シリーズ、H-55 200V出力サイズは、充電器異常が発生すると、本ソフトウェアはコンピュータのシャットダウン処理を行います。

ページが表示されました

マイコンピュータ

誤

「付録B」

C:\Documents and Settings¥10433638¥デスクトップ¥DOC¥UND¥append\_b.htm - Microsoft Internet ...

目次へ HELP

## 付録 B

### 判定条件詳細説明

停電/abnormal(不バッテリー)判定条件に関する詳細を下記に説明します。

イベント判定に関するユーザ定義

停電判定/abnormal(不バッテリー)判定に関するユーザ定義

ユーザ定義①: UPS台数  
[ all / at-least-one / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / 8 / special ]  
special: UPS台数によるイベント判定は行わない

ユーザ定義②: 特定UPS  
(1台のみ定義可能)

<停電判定条件>  
以下の(1)、(2)のいずれかの条件を満たす場合

(1)下記2項目のAND条件を満たすこと。  
・1台以上のUPSが「onBattery」である  
・「onBattery」「abnormal(不バッテリー)」「出力なし」「通信異常」のUPS台数が、ユーザ定義①で定義した台数以上である

ページが表示されました

正

「付録B」

C:\Documents and Settings¥10433638¥デスクトップ¥HTMデータ再修正\_20111003¥UND¥append\_b.htm...

目次へ HELP

## 付録 B

### 判定条件詳細説明

停電/abnormal(不バッテリー)判定条件に関する詳細を下記に説明します。

イベント判定に関するユーザ定義

停電判定/abnormal(不バッテリー)判定に関するユーザ定義

ユーザ定義①: UPS台数  
[ all / at-least-one / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / 8 / special ]  
special: UPS台数によるイベント判定は行わない

ユーザ定義②: 特定UPS  
(1台のみ定義可能)

<停電判定条件>  
以下の(1)、(2)のいずれかの条件を満たす場合、本ソフトウェアは停電と判断しコンピュータをシャットダウンします。

(1)下記2項目のAND条件を満たすこと。  
・1台以上のUPSが「onBattery」である  
・「onBattery」「abnormal(不バッテリー)」「出力なし」「通信異常」のUPS台数が、ユーザ定義①で定義した台数以上である

マイコンピュータ

「付録B」

②ユーザ定義②で定義した特定UPSが「onBattery」であること。

[下表の語句と記号の説明]  
 正常: UPSがインバータ給電  
 onBattery: UPSがリバッテリー運転  
 出力なし: UPSの出力停止 [例]手動でUPSを停止させた  
 abnormal(④-バッテリー): バッテリ電圧低下 [例] バッテリの寿命劣化故障、長時間のバッテリー運転  
 通信異常: UPSとコンピュータ間の通信異常 [例] ネットワークケーブルの切断、スイッチングハブの故障

○: UPSが停電と判断し、コンピュータをシャットダウンする

〈UPS2台監視の組み合わせ〉

ユーザ定義①: all

		UPS1				
		正常	onBattery	出力なし	abnormal(④-バッテリー)	通信異常
UPS2	正常					
	onBattery		○	○	○	○
	出力なし		○			
	abnormal(④-バッテリー)		○			
	通信異常		○			

ユーザ定義①: at-least-one

		UPS1				
		正常	onBattery	出力なし	abnormal(④-バッテリー)	通信異常
UPS2	正常		○			
	onBattery	○	○	○	○	○
	出力なし		○			
	abnormal(④-バッテリー)		○			
	通信異常		○			

ページが表示されました

「付録B」

②ユーザ定義②で定義した特定UPSが「onBattery」であること。

[下表の語句と記号の説明]  
 正常: UPSがインバータ給電  
 onBattery: UPSがリバッテリー運転  
 出力なし: UPSの出力停止 [例]手動でUPSを停止させた  
 abnormal(④-バッテリー): バッテリ電圧低下 [例] バッテリの寿命劣化故障、長時間のバッテリー運転、充電器異常 [ UPS機種限定: H-07シリーズ、H-55 200V出力シリーズ]  
 通信異常: UPSとコンピュータ間の通信異常 [例] ネットワークケーブルの切断、スイッチングハブの故障

下表にUPS2台を監視する構成を例に、停電判定条件を示します。  
 下表で「○」は本ソフトウェアが停電と判断しコンピュータをシャットダウンする場合を示します。

ユーザ定義①: all

		UPS1				
		正常	onBattery	出力なし	abnormal(④-バッテリー)	通信異常
UPS2	正常					
	onBattery		○	○	○	○
	出力なし		○			
	abnormal(④-バッテリー)		○			
	通信異常		○			

ユーザ定義①: at-least-one

		UPS1				
		正常	onBattery	出力なし	abnormal(④-バッテリー)	通信異常
UPS2	正常		○			
	onBattery	○	○	○	○	○
	出力なし		○			
	abnormal(④-バッテリー)		○			
	通信異常		○			

マイ コンピュータ

「付録B」

C:\Documents and Settings\10433638\Desktop\DOC\UNDX\append\_b.htm - Microsoft Internet ...

ユーザー定義①:special + ユーザ定義②:UPS1

		UPS1				
		正常	onBattery	出力なし	abnormal(不-バッテリー)	通信異常
UPS2	正常		○			
	onBattery		○			
	出力なし		○			
	abnormal(不-バッテリー)		○			
	通信異常		○			

< abnormal(不-バッテリー)判定条件 >

(1)下記2項目のAND条件を満たすこと。  
 ・1台以上のUPSが「abnormal(不-バッテリー)」であること。  
 ・「abnormal(不-バッテリー)」「出力なし」「通信異常」のUPS台数が、ユーザー定義①で定義した台数以上であること。

(2)ユーザー定義②で定義した特定UPSが「abnormal(不-バッテリー)」であること。

[下表の語句と記号の説明]  
 正常:UPSがインバータ給電  
 onBattery:UPSがバッテリー運転  
 出力なし:UPSの出力停止 [例]手動でUPSを停止させた  
 abnormal(不-バッテリー):バッテリー電圧低下 [例]バッテリーの寿命劣化故障、長時間のバッテリー運転  
 通信異常:UPSとコンピュータ間の通信異常 [例]ネットワークケーブルの切断、スイッチングハブの故障

○:UPSがabnormal(不-バッテリー)と判断し、コンピュータをシャットダウンする

(UPS2台監視の組み合わせ)

ユーザー定義①:all

		UPS1				
		正常	onBattery	出力なし	abnormal(不-バッテリー)	通信異常
UPS2	正常					
	onBattery					
	出力なし			○		

ページが表示されました

マイ コンピュータ

「付録B」

C:\Documents and Settings\10433638\Desktop\HTM\データ\_再修正\_20111003\UNDX\append\_b.htm...

ユーザー定義①:special + ユーザ定義②:UPS1

		UPS1				
		正常	onBattery	出力なし	abnormal(不-バッテリー)	通信異常
UPS2	正常		○			
	onBattery		○			
	出力なし		○			
	abnormal(不-バッテリー)		○			
	通信異常		○			

< abnormal(不-バッテリー)判定条件 >

以下の(1)、(2)のいずれかの条件を満たす場合、本ソフトウェアは「abnormal(不-バッテリー)」と判断しコンピュータをシャットダウンします。

(1)下記2項目のAND条件を満たすこと。  
 ・1台以上のUPSが「abnormal(不-バッテリー)」であること。  
 ・「abnormal(不-バッテリー)」「出力なし」「通信異常」のUPS台数が、ユーザー定義①で定義した台数以上であること。

(2)ユーザー定義②で定義した特定UPSが「abnormal(不-バッテリー)」であること。

[下表の語句と記号の説明]  
 正常:UPSがインバータ給電  
 onBattery:UPSがバッテリー運転  
 出力なし:UPSの出力停止 [例]手動でUPSを停止させた  
 abnormal(不-バッテリー):バッテリー電圧低下 [例]バッテリーの寿命劣化故障、長時間のバッテリー運転、充電器異常 [UPS機種限定:H-07シリーズ,H-55 200V出力シリーズ]  
 通信異常:UPSとコンピュータ間の通信異常 [例]ネットワークケーブルの切断、スイッチングハブの故障

下表にUPS2台を監視する構成を例に、abnormal(不-バッテリー)判定条件を示します。  
 下表で「○」は本ソフトウェアがabnormal(不-バッテリー)と判断しコンピュータをシャットダウンする場合を示します。

ユーザー定義①:all

		UPS1				
		正常	onBattery	出力なし	abnormal(不-バッテリー)	通信異常
UPS2	正常					
	onBattery					
	出力なし			○		

マイ コンピュータ